

平成29年度
第1回大仙市アーカイブズ運営審議会会議録

日時 平成29年9月27日（水）14：00～17：15

会場 大仙市アーカイブズ 研修室

出席委員（五十音順）

池田キミ委員 茶谷十六委員 富樫泰時委員 戸嶋明委員 畑中康博委員
渡辺英夫委員

職員

福原勝人（総務課長） 細川良隆（アーカイブズ館長） 森川悌一（同副主幹）
高橋一倫（同主席主査） 蓮沼素子（同主査） 照井沙耶加（同主事）

記録者 森川悌一

I 開会

II 挨拶

○福原課長

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様におかれましては、委員就任を御快諾賜りまして、誠にありがとうございます。アーカイブズが整備される前の設置懇話会という形でやってまいりましたが、これを発展的に解消して、運営審議会とさせていただきます。これに伴いまして、黒澤三郎さんから池田キミさんに委員をお願いすることになりました。池田様、どうかよろしくお願い申し上げます。

ひとつ御報告ですが、第29回住生活向上月間住宅局長表彰受賞ということで、本日、市長が定例記者会見で報道発表いたしました。アーカイブズの整備に当たりましては国交省の空き家対策の補助金を活用しております。10月が住生活月間ということで、全国的に啓発活動をしているわけですが、これに当たりまして住宅局長表彰を受賞することが決定いたしました。10月1日長崎県佐世保市で開催される記念式典に副市長と私が出席して賞を頂戴してまいります。

大仙市では、空き家対策条例の制定、空き家バンクの整備、それと併せて空き建築物の活用、これがまさにこのアーカイブズでありましたが、こういったものを活用しながら地域の活性化に資するということが受賞の要因であったのではないかと考えております。

これまで報道機関等にも多く取り上げられておりますが、こういったことを通じて公文書館の必要性・重要性につままして一般市民にも認知され始めているのではないかと感じております。

また、7月22日の豪雨により協和地域の淀川保育園において床上浸水がありました。これによって、文書やアルバムが水損したことから、当館による資料レスキ

ューを行い、現在も作業を継続しております。不幸を逆手に取るわけではありませんが、結果としては、アーカイブズの良い宣伝になったのではないかと考えております。

今後の短期的あるいは中期的課題といたしましては、各庁舎等に散在する資料を可及的速やかにアーカイブズに運び入れ、書庫に排架してアーカイブズの基本的な態様を整えることではないかと認識しております。今後、正規・非正規職員の増員も視野に入れてマンパワーの充実ということを通じて、早急な資料の整理・排架を検討してまいりたいと存じております。本日はこれまでの運営状況の後報告を申し上げますまして、忌憚のない御意見等を賜りたいと存じておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

Ⅲ 大仙市アーカイブズ運営審議会について

(1) 会長、副会長の指名

会長に渡辺英夫氏、副会長に畑中康博氏を指名し、了承された。

(2) 平成29年度の開催スケジュール

第1回 平成29年9月27日

第2回 平成30年3月22日

Ⅳ 報告(平成29年度(上半期)の事業等について)

～ 項目毎に事務局説明後、質疑応答 ～

1 利用状況

- (1) 入館者数及び資料請求者数
- (2) 職員利用件数
- (3) レファレンス件数
- (4) 視察等団体数及び送迎対応件数
- (5) 視察・見学団体一覧

○渡辺会長

目録の整備状況についてですが、全体の中でどれくらいが目録化され、閲覧できる状態になっていますでしょうか。

○蓮沼主査

公文書に関しては、3, 219冊が搬入済みで、この内1, 406冊については、目録を整備して閲覧室とホームページ上で公開しています。その他、問い合わせがあれば、リストで検索してお答えしています。

古文書についても、整理が済んだ分については目録があるので、このようなものがあるというようにレファレンスしています。

○渡辺会長

古文書については、数字的にはどうなっているのでしょうか。「〇〇家文書」といった場合の「〇〇家」がどれ位で、総数がどれ位でしょうか。

○高橋主席主査

「家」で約120件、総数で約5万点ほどです。

○渡辺会長

送迎が土曜日に集中していますが、何か理由は把握されていますか。

利用者の年齢層などは関係ありますか。

○照井主事

電車で来られた大学生の方やお年寄りなど、利用者の年齢層は幅広いので、偶然かと思われます。

○細川館長

事前に御連絡いただいておりますので、お待たせすることなくスムーズに対応させていただいております。

○戸嶋委員

職員利用について、5月に職員利用がありましたが、終わってから「役に立ったかどうか」というようなコミュニケーションはありましたか。利用者がどういうものを探しに来たのかという事を知れば、どういうものを残せばいいのかということに繋がるので、利用者とのコミュニケーションがあればいいと思います。

○福原課長

5月の職員利用は、用地買収の件ですので、おそらく契約書の類だと思います。職員の利用に当たってどういったものを探しているのか、積極的に聞いてきたかといえば、聞いていないようです。今後、この点につきましては、有効であると思いますので、留意してまいりたいと思います。

○茶谷委員

開館以来、団体視察が続いていますが、東北初の市立公文書館はどんなものなんだろうという関心が続いている事は、いいことだと思います。それと、専門的な団体の来館は、どういった理由からでしょうか。

○蓮沼主査

大学院の先生が学生の方たちと一緒に資料調査にいらっしゃいました。

また、7月の豪雨災害で被災した法人立保育園のレスキュー活動をしておりましたので、国文学研究資料館の方がその様子を見にいらしたということがありました。

国文学研究資料館とは、東日本大震災の釜石でのレスキューの縁もある関係で、こちらの被災資料の乾きが悪いということもあって、大型の扇風機1台をお借りしております。

2 資料の収集・搬入状況

(1) 公文書について

ア 資料搬入点数

イ 排架点数

ウ 搬入計画

エ 整理計画

(2) 地域史料について

ア 点在する地域史料

イ 整理作業

ウ 排架作業について

エ 搬入計画

(3) 公文書評価選別について

ア 概要

イ 保存・廃棄冊数

○渡辺会長

平成31年度の搬入計画で、「小種文書庫」とありますが、具体的にはどこにあるのですか。

○蓮沼主査

協和地域にある旧小種小学校の教室を文書庫として使っております。

○福原課長

仙北庁舎の車庫にありました文書を暫時運び入れております。また、平成19年度に文書の全量保存の措置をとったときに本庁から溢れた文書を毎年入れております。その後、評価選別をいたしまして、保存としたものが現在も置いてあります。その他に、各課の現用文書を暫時置いているという状況です。

○畑中委員

3, 219冊の内1, 406冊が終わっているということですが、残りの1, 800冊程はまだダンボールに入っている状態で、年度内に整理・排架ということは間に合うのでしょうか。また、目録がある分は3カ年計画で搬入するということですが、神岡・西仙北・協和・南外は未整理ですよね。全体が終わるのには、どれ位かかるのでしょうか。

○蓮沼主査

今年度については、本来であればこの時期には終わっていたはずなのですが、被災レスキューが入り出来ない状態でしたので、かなり遅れております。ただ、9月に整理した分量を考えると、このペースでいくと年度内に終わる予定です。

未整理分については、これから調査してまいりますので、3カ年に加えてもう2年の5年以内にと考えております。また、始めの内は慣れていないので、様子を見ながらということになりますが、慣れてくると作業のスピードは速まると思います。

永年文書については、5年間で移管を終わらせたいと考えております。

○畑中委員

マンパワーの増加があれば、移管が早まるということですか。

○蓮沼主査

人数が増えれば、作業のスピードも上がりますし、もう少し余裕をもって作業できると思います。

○渡辺会長

福原課長の御挨拶の中で、職員の増員について触れておられましたが、マンパワーがあれば、移管の完了時期を早めることが出来るということですが、どのような見通しをお持ちでしょうか。

○福原課長

これにつきましては、職員数とも大きく関係しますが、今の大仙市の職員数は足りない状況です。来年度は、もっと少なくなることが見込まれている中で、アーカイブズが開館して、資料を搬入し、排架することが最も重要なことだと考えております。また、支所等に散在している資料もあり、中には劣悪な環境にあるものもあります。職員につきましても、旧市町村時代の文書の所在を把握できていないような状況が生まれてきております。時間的な余裕が少ない中、5年、10年地道に作業を続けるということが許されない状況だと感じております。

ただ、私は人事を担当している課長ですので、全体のバランスも考慮しないとできません。アーカイブズに人を増やすということが難しい状況だと痛切に感じております。例えば、3年間など期間限定という条件付でマンパワーをかけてやってみたいと考えております。

○渡辺会長

資料整理ということですので、関連して、ボランティアの活用については、どのような構想をお持ちでしょうか。これは難しいことでしょうか。

○福原課長

臨時職員を手当てできなければ、ボランティアまで広げて、ということになりますが、それを指揮する正職員が必要になります。そのバランスということになりますが、もちろんボランティアというものも視野に入れます。

○渡辺会長

評価選別について、全体の6.3%に当たるものを残すということですが、現在の日本のアーカイブズの状況では、他との比較ではどうなりますか。

○福原課長

当初、私がアーカイブズ構想で想定しておりましたのが5%でありました。ですので、ほぼ想定どおりであると思います。

○蓮沼主査

全国的に見ると、多いところで、10%程度残しているところもありますが、平均的に3～5%かと思います。ただ、国は1%にも満たないという状況です。

○渡辺会長

一方で、まったく残らない部署があるのですが、その辺の説明をお願いします。

○福原課長

会計管理者については、現金の出納簿でして、10年で捨てるということで全国的にもそのように取り扱われています。上下水道部については、そもそも分母が少ないということを考え合わせますと、おそらく、配管敷設などの工事関係の文書はここに入っていないのだと思います。担当課で押さえてしまっているといえますか、評価選別の土俵に上がっていないものがあるのだと思います。

○渡辺会長

規定では、種類ではなく、年数が経てば自ずと評価選別の対象になるのだと思いますが。

○福原課長

現実にはそうはなっていないということだと思います。この辺は、これから我々が切り込んでいかなければならない部分だと思います。

○渡辺会長

情報公開ということからすると、原課に現用文書のまま保管されているということで、情報公開条例での対応ということになりますね。ただ、例規では保存期間が過ぎれば、こちらに来るはずなのに、そうならないというのは問題ですね。

○福原課長

はい。ただ、一つの工事にしましても、請負契約書などは30年保存ですし、設計図等は当然残すべきものですが、その中間的なもの、3、5、10年もあります。そのような塊をどう残していくのか、どの程度残すのか、全部残すのかという問題があります。

○渡辺会長

簿冊の標題は整理されているということですが、その簿冊の中の件名までは、整理されていないということですね。その場合、プライバシーの関係で、その1冊が公開可能かどうか、全部点検した上で排架されているのですか。

○蓮沼主査

今回の整理の仕方としましては、簿冊を大まかに見まして、個人情報が入っているかどうか判断しまして、個人情報が入っているものについては、「要審査」とし、入っていないものについては、「公開」としています。「要審査」のものについては、請求が来たときに複数人で審査して、公開するかマスキングするか判断しています。

○茶谷委員

太田文化プラザに町史編纂事業のときの地域史料が保存されている訳ですが、寄贈・寄託について、将来的には、どのようにしていく方針ですか。

○高橋主席主査

太田文化プラザの収蔵庫は、鈴木空如の資料・作品を収蔵するためにつくられ

ている訳で、町史編纂時代から我々は間借りしている状態です。これを元の状態に戻す方向で考えております。これらの地域史料をアーカイブズに移すこととなりますが、作業室のスペースの問題がありますので、公文書とのバランスを取りながら行ってまいりたいと思います。

○渡辺会長

大仙市内の歴史資料一覧のリストに神岡地域、南外地域がないのですが、これはどのような理由からですか。特に南外には、『南外村史』があったはずですが。

○高橋主席主査

南外地域については、単純に調査が本格的に入っていないということです。村史編纂事業では、ほとんどコピーですが残っております。そういった編纂事業で使用した資料をアーカイブズに引き継いでいきたいと考えております。神岡地域につきましては、大火や水害で資料の残りが悪いということが挙げられます。

○渡辺会長

神岡地域は、今年の豪雨災害や9月の地震の震源地でもあり、全国的に注目されましたが、資料の被害の把握については、いかがですか。

○福原課長

地域史料の被災状況については、把握できておりません。ただ、町史編纂収集資料につきましては、神岡農村環境改善センターの2階にきちんと入っております。これについては、大丈夫です。

○渡辺会長

デジタルアーカイブズに関して、技術的な問題でまだインターネットでの公開には至らずに、館に来て、ここでの公開ということによろしいですか。

いずれは、県公文書館や県立図書館のようにネットで公開していくという方針でしょうか。

○高橋主席主査

はい。

○渡辺会長

大仙市では、川港整備事業ということで、角間川地区の本郷家をはじめとしたエリアを整備していますね。本郷家の文書について、アーカイブズとしての考えはお持ちでしょうか。

○細川館長

今整備を進めているのは、3軒の旧家でそれぞれに資料がありました。これまであちこちの研究機関に資料を寄贈・寄託かは分かりませんが、出してしまったということで、家にはほとんど資料は残っていないという状況です。中心となる本郷家についても、御自宅に資料がほとんど残っていないという状態です。ノースアジア大学に資料があるということですが、どのようにしてこちらにたぐり寄せるのかということがこの館の課題であると思います。

○渡辺会長

本郷家文書については、寄贈・寄託かは分かりませんが、今はノースアジア大学になっておりますが、経済法科大学のときに現物がありました。

ただ、元々の資料としては大仙市角間川の資料ですので、向こうの管理がどうなっているのかは分かりませんが、気に留めておいてほしいと思います。

○細川館長

はい。市文化財保護課と連携して、所有権の確認から行いたいと思います。

3 例規改正

(1) 改正対象例規及び理由

(2) 改正後例規

○戸嶋委員

実際に動いてみてやりやすいようにということだと思いますが、一次選別の関係で、文書の性質によってというところの説明をお願いします。

○森川副主幹

文書庫に入れる前に、3年としていたものでも綴られている文書の内容で5年あるいは10年に延長すべきか、保存期間が適当かどうかを原課が再設定するという事です。

○渡辺会長

行政刊行物ということで、パンフレット、リーフレットが挙がっておりますが、大仙市を代表する「花火」、これについての案内等も対象となるということですか。

○福原課長

これから、(仮称)花火伝統文化継承資料館、簡単に言うと花火資料館を整備します。花火関連資料は、仙北中学校の旧合宿所に保管しておりますが、これを丸ごと新しくできる資料館に運び入れることとなります。花火に関しての資料ということだと、こちらに来る予定は今のところございません。

各課で作成するパンフレット等については、作成した場合はアーカイブズにも数部送るようという仕組みを作りたいと思います。

○渡辺会長

自治体史を見る前に、各部署で作っているパンフレット、リーフレット等に来歴や歴史などがかいつまんで載っていて、そういったものを使って教材化するということがあります。そういったものが全部揃っていて、それを利用者もわかってくると、アーカイブズは便利な施設だということが認識されます。

調べ物の取っ掛かりの部分で、各部署の職員が自治体史を基に作ったパンフレット等を読む。次に本(自治体史)を読む。そういう風に勉強を進めていくと、オリジナルの資料は何なんだろうということで、段々と進んで行くと思います。量がそろえば質に転化するということもありますので、是非続けていただきたい

での公開が第一義的に必要だと思います。

県立博物館のFacebookのフォロワーが1千人を超えました。これは更新の頻度をものすごく上げて、何時に見ているかをチェックし、資料や景色の写真などをあげていくことで増えてきました。利用者が毎日更新をチェックしたくなる、そういった体制を整えて初めて効果的になるものであって、中途半端が一番良くないと思います。

○渡辺会長

教育委員会との連携ということですが、教育委員会側ではどのような対応をとってくれたのでしょうか。

○高橋主席主査

今年使っている小中学校の社会科の教科書の中で、日本史ということで、地域に関連した項目を拾ってもらい、それに関連した資料をこちらで探すという事を教育委員会と協議しております。

○渡辺会長

連携が図られているということですね。行く行くは秋田大学との連携も密にさせていただきたいところです。秋田大学には、現場の先生方の再教育機関に特化し、教員としての資質をさらに高める教職大学院というものができました。そこでは、内容教育もさることながら、いかに教材を開発するかという観点からの研究と教育が進められているところです。

具体的に言うと、ふるさと秋田の教材開発ということをして院生の皆さんが実習するわけですが、そういったときに、アーカイブズの資料が充実していれば、院生さんたちに積極的にコンタクトをしてもらい、それが便利だ、利用価値がある、となれば、もっと教育現場に広がっていくのではないかと思います。ですから、そのようなことも視野に入れていただければと思います。

○茶谷委員

来年度の展示計画ということで、明治150年記念展示というものがありますが、政府をはじめとして、いろいろなところで何かやられると思うのですが、この館ではどのようなことを考えていますか。

○福原課長

現在のところ、構想段階ですが、大仙市といたしましても、明治150年事業に取り組みたいということで、先日、市長と政策協議いたしました。来年度、アーカイブズ中心で大仙市の明治150年事業を構成したいということで、協議いたしましたところ、了承されました。具体的には、シンポジウムの開催、企画展示とともに数回、それと関係する史跡を巡るツアー、大きく3つの内容で8月から10月にかけて企画できるように構想中であります。

ただ、大仙市単体では出来ませんので、秋大史学会や秋田近代史研究会等と連携させていただいて、また、県公文書館等関係機関にも協力を仰ぎたいと考えております。

5 調査活動

(1) 民間資料調査活動

○渡辺会長

民間資料調査ということで、南外地域2件ということでした。今後もこういった活動を継続していただきたいと思います。

6 施設管理

- (1) 温湿度調査
- (2) 生物被害調査
- (3) 生物被害対策

○渡辺会長

温度については、外部よりも建物内部の方が変化が緩やかな一方、湿度については、80%を超えるような日もあり、将来的には対策が必要ということですね。

また、この調査は今後も継続して行うということですね。

○蓮沼主査

はい。1年の季節毎の変化に対して、どのような対策が必要となるのか検討する必要がありますので、同じ箇所でも継続して調査する予定でおります。

7 豪雨災害

- (1) 被災状況
- (2) 被災資料レスキュー

○渡辺会長

今回の豪雨災害に関する写真をはじめとした資料は、後々の貴重な参考資料になっていくと思いますが、これらの資料の収集については、どのようになっていますでしょうか。

○福原課長

まだ、収集まではいっておりませんが、市の防災を担当している総合防災課というところがございまして、そこで各支所や個々の職員が撮影した写真を収集しております。そのデータを後ほどこちらに頂くということで考えております。

○細川館長

今回の資料レスキューでは、マンパワーの不足ということがあり、池田委員をはじめ、ボランティアの方々から、乾燥作業で使うダンボールサンドの作成に御協力をいただきました。誠にありがとうございました。

また、資材の面でも、新聞紙を大曲図書館から、ダンボールを市内の印刷業者

から提供いただき、使用させていただいたという経緯がございました。

○渡辺会長

たまたまなのでしょうけれども、今回の被災資料レスキューでは、東日本大震災で被災した釜石市との関連があったということですが、この点に関して、東北地方には、資料救出に関わる多くの組織があると思うのですが、これらの組織との情報交換を含め、連携についてはどのような動きをしたのでしょうか。

○福原課長

組織的に連携するということまでは、いっておりません。むしろ、向こうの方で心配していただき、こちらに来ていただいて、いろいろ御指導いただいたというところですよ。

○渡辺会長

その辺のところは、情報共有を密にさせていただき、是非連携していただきたいと思います。よそは大仙市のことを随分心配しています。私自身も電話で問い合わせ、アーカイブズは大丈夫ということを知りましたが、アーカイブズの側から状況を発信していただきたいと思います。

また、ここに来て確認したことを東北大学で救出活動をしているNPO法人宮城資料ネットに情報を伝えました。そうしたところ、熊本地震での資料レスキューの事例を教えてくださいました。それによると、人命に関わるところが落ち着いた段階で、資料救出の組織の方から働きかけて、被災した資料を救出する活動をしなければならないとのことで、そのときに配った熊本地震後のチラシのデータをいただきまして、これを大仙市アーカイブズに送りました。そういったことからわかるように、向こうはノウハウを持っている訳ですから、大仙市で独自にということではなく、是非連絡を取り合って、連携して活動を進めていただきたいと思います。

被害に遭われた方は、生活の再建の事で手一杯で、資料の方まで目がまわらないと思いますので、行政や団体の側から働きかけていくことが大事だろうと思います。

○茶谷委員

今回の豪雨では、大仙市と同じく秋田市雄和でも被害がありました。知り合いの家に確認したところ、古文書も被害を受けたとのことで、すぐに秋田市の個人の方に、私の研究所に持ってきてもらいました。私は、東日本大震災のときの陸前高田市や、宮城資料ネットでの救出活動の経験がありましたので、まずは、夏場ということでカビが怖いことから、水の張った桶に入れて泥を落とす作業を行いました。

歴史資料は、災害の度にたくさん失われるので、現物は現物として大事ですが、スキャンしてデジタルデータとして残すということも大事だと思います。

また、この館に大量の古文書を集めて保存するわけですから、もし被災してしまったときの対策（凍結真空乾燥など）も考えていただきたいと思います。

8 職員研修

- (1) アーカイブズ職員向け
- (2) 一般職員向け

○渡辺会長

先程の資料レスキューの対象となった淀川保育園ですが、アーカイブズに直接依頼してきた訳ではなく、市の担当課に相談したところ、それであればアーカイブズだということ動き出したそうです。その意味では、職員への研修が実を結んだ成果だと思えます。これをやっていたからこそ、問題が保育園でストップしないでアーカイブズに来たのだと思えますので、一般職員向けの研修は重要なものだと思います。職員のアーカイブズに対する認知度はまだまだ低いようですので、そのような職員研修の機会を積極的に増やしてアーカイブズをもっと知ってもらえるようにしていただけたらと思います。

VI 閉会（17：15）

次回（第2回）開催予定 平成30年3月22日（木）